

平成23年度 事務事業評価シート（平成22年度実績分）

事務事業名	春野環境センター管理費		部課コード	1816	予算事業科目	010403010620	事	単	区分	継続	
所管部署	担当部局	環境部	部長名(2次評価者)	坂本 導昭		個別事務	全部	010403010620	-		
	担当部署	春野環境センター	所属長名(1次評価者)	笠原 隆彦			-				
	電話番号	894-2314	E-mail	kc-181600@city.kochi.lg.jp			-				

1 事業の位置付け

予算科目(平成23年度)	高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け									
会計	01 一般会計	大綱	01 共生の環	政策基本方針	日々の生活で消費される化石燃料など天然資源の枯渇は、私たちの生活に深刻な影響を及ぼすことから、資源を有効に利用し、廃棄を最小限に抑える循環型社会の構築が求められています。市民・事業者・行政の協働による3R（リデュース・リユース・リサイクル）の徹底及びゴミの発生抑制に取り組めます。また廃棄物の不法投棄など不適正な排出の撲滅に向けた対策を充実します。					
款	04 衛生費	政策	06 環境負荷の少ない循環型社会の形成							
項	03 清掃費	施策	02 廃棄物の適正処理							
目	01 塵芥処理費	区分	09 春野環境センター							

2 事業の根拠・性格

法律・政令・省令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等	高知市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例	
その他(計画、覚書等)		

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	高知市春野地区住民		
意図	どのような状態にしていくのか	合併後の春野地区におけるごみの適正処理を継続		
手段	事業実施体制等	春野清掃センター（ストックヤード）の管理。春野地区のごみ処理に関する啓発。	事業開始年度	平成19年度
			事業終了年度	
活動内容	どのような事業活動を行うのか	○春野清掃センター（ストックヤード）で資源ごみ等の受け込み。○春野地区での死獣の処理。○北原クリーンセンターから排出される焼却灰処分に関する業務。		
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方	
	A			
	B			
	C			

4 事業の実績等

		20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	目標					
		実績					
	B	目標					
		実績					
C	目標						
	実績						
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	7,955	8,893	10,231	9,726	
		財源内訳	国費 (千円)				
			県費 (千円)				
			市債 (千円)				
			その他 (千円)				
			一般財源 (千円)	7,955	8,893	10,231	9,726
	翌年度への繰越額 (千円)						
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	7,500	7,400	7,200	7,200	
		正規職員 (千円)	7,500	7,400	7,200	7,200	
		その他 (千円)					
人役数 (人)		1.00	1.00	1.00	1.00		
正規職員 (人)		1.00	1.00	1.00	1.00		
	その他 (人)						
	総コスト= ① + ② (千円)	15,455	16,293	17,431	16,926		
	市民1人当たりコスト (円)	45	48	51		総コスト/年度末人口	
	年度末住民基本台帳人数 (人)	340,695	339,714	339,130			

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

○春野清掃センターでは春野地区住民を対象として生ごみ以外は全て受け入れている。22年度の受入件数は185件。ゴミの種別にかかわらずワンストップで受入をしているので利用者にとって利便性が高い。一部施設の老朽化が課題。
 ○春野地区内での死獣の処理は、住民からの通報などがあれば現地に赴き回収し、迅速に対処している。
 ○春野地区の家庭ゴミは土佐市北原クリーンセンターで焼却処理されている。春野地区分の焼却残渣についてはクリーンセンターから埋立可能な処分場まで運搬して処理を行っている。

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 23 年 9 月 5 日）

評価項目		評価基準	1次	平均 点数	評価内容の説明	
事業実施の必要性	① 〔施策体系等での位置付け〕 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	A	4.0	本事業は平成20年1月に春野町と高知市の合併協議において春野地区のゴミ処理は1市2制度で、それぞれ行うこととされたことによるもの。現時点では平成24年度末までは継続して実施されることとなっており、1市1制度となるまで春野地区住民にとって必要不可欠なものである。	
	② 〔市民ニーズの傾向〕 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない				B
事業内容の有効性	③ 〔成果の達成状況〕 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	A	5.0		合併後の春野地区のゴミは適正に処理されており、問題はない。ごみの受け込み施設である春野清掃センターの老朽化が懸念されることである。
	④ 〔事業の手法・活動内容〕 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である	A			
事業実施の効率性	⑤ 〔アウトソーシングの可能性〕 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	B	3.0	本事業は平成20年1月に春野町と高知市の合併協議において春野地区のゴミ処理は1市2制度で、それぞれ行うこととされたことによるもの。現時点では平成24年度末までは現行体制で事業が継続されることとなっており、行政主体でおおむね効率的に実施されている。	
	⑥ 〔事業統合・連携・コスト削減〕 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である	B			
事業実施の公平性	⑦ 〔受益者の偏り〕 事業の受益者が特定の個人（団体）等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	B	3.0		住民が資源やゴミを処理施設に持ち込むにあたって、旧高知市地域の住民はそれぞれのごみ処理施設に各自が資源ごみや可燃ごみを持ち込むことができる。また旧春野町地区の住民は家庭系生ゴミ以外は春野清掃センターに一括して持ち込み処理できるのでワンストップの利便性がある。一方で、旧春野町地区の住民は可燃ごみを自身で焼却施設に持ち込めない。現時点において旧高知市地域と旧春野町地域の住民の受益できるサービスに若干の偏りが生じている。
	⑧ 〔受益者負担の適正化〕 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである	B			
総合点	15.0	総合評価	A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)			
			○ B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)			
			C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合)			
			D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)			

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 23 年 9 月 20 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
○ A 事業継続	公平性が低い評価となっているのは、現時点でごみ有料化の問題が根底にあることから、本市が一部事務組合を脱退するまでに、この問題についての今後の方向性を明示する必要がある。
B 経費削減に努め事業継続	
C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項